

# 筑波大学新聞

## 第347号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail  
shinbun@  
un.tsukuba.ac.jp

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

### 注目記事

『いだてん』特別展開催 **2**

蠟型ブロンズ彫刻展 **5**



ブロンズ彫刻の展示

女子バレー 9年ぶり優勝 **8**

バスケット 男女共にベスト4 **9**

つくば市 プラゴミ分別収集 **10**

自転車盗難被害減らず **11**

ミニ特集 **3**

退職教員4人に聞く  
教員人生の軌跡

特集 **6,7**

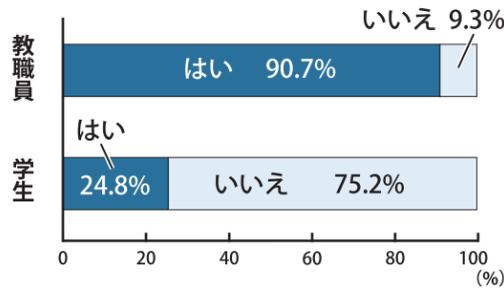
セクハラ・アンケート実施

「大学に行きたくなくなった」

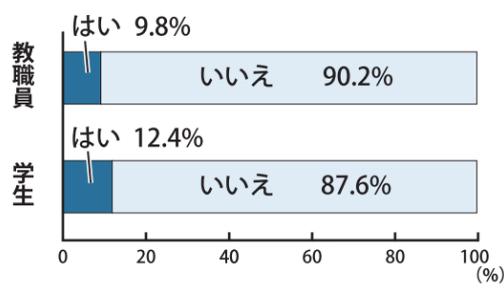
# 学生7割「知らない」

## 本紙調査 筑波大のセクハラ防止の取り組み

### 筑波大のセクハラ防止の取り組みを知っているか



### 何らかのセクハラを受けたことがあるか



世界的にセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)が問題となる中、本紙は昨年12月、セクハラに関する学内アンケートを行い、回答した教職員194人、筑波大生145人のうち教職員19人(9.8%)、学生18人(12.4%)が所属する研究室・ゼミで「何らかのセクハラを受けたことがある」と答えた。「セクハラを受けた」人のうち、学内の相談機関の利用は4人だけだった。また、学生109人(75.9%)が筑波大のセクハラ防止の取り組みを「知らない」と答えてもいる。筑波大では昨年2月、教員がセクハラで懲戒解雇されている。

(本紙取材班、6、7面に関連特集)

アンケートは、連絡先が把握できた研究室・ゼミに所属する教職員1343人と、筑波大生約1100人にメールなどで配布。教職員、学生とも約15%から回答があった。教職員の回答者の内訳は、男性148人(76.3%)、女性32人(16.5%)、その他・無回答が14人(7.2%)。学生は男性62人(42.8%)、女性80人(55.2%)、その他・無回答3人(2.1%)だった。

その結果、何らかのセクハラを受けたことがある」との回答は、教職員は女性11人、男性2人で、その他・無回答は6人だった。また、学生で受けたことがあるのは、女性12人、男性3人で、その他・無回答は3人だった。

何らかのセクハラを受けたことがある」と回答した教職員にその内容を複数回答で聞くと、容姿を話題にされたり、性的な話題を聞かされるなどの「言葉によるもの」が13人で最多。次いで、「女性に昇進しなくても良い」など「就業上の不利益」が11人、お茶くみやお酌をさせられたなど「性的役割の強要」が8人、手や腰を触られたなど「不快な性的行為」が6人と続いた。また、性的行為の強要、または未遂などの「性的な暴力行為」も1人いた。

また、学生の場合は、「性的役割の強要」が10人で最多。「言葉によるもの」が9人、「交際の強要」、「不快な性的行為」が6人と続いた。また「性的な暴力行為」も1人いた。

筑波大は2005年からハラスメントへの全学的な対応を開始。16年には相談室を設置し、複数の相談員に加えカウンセラー資格を持つ職員1人を配置した。学生や教職員は、相談員とカウンセラーいずれかを選んで相談できる。

セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)は「性的言動」によって不利益を受けたり、労働環境などが害されるハラスメント(嫌がらせ)のこと。17年にハリウッド女優が有罪判決を宣告したことをきっかけに、次々と告発が広がり、世界的な問題となった。

# 体育施設で盗難多発

## 筑波大 被害額は3年間で45万円以上

筑波大学の中央体育館や武道館などの体育施設内で財布から現金が抜き取られたり、パソコンが盗まれるなど盗難被害が多発している。学生生活課などへの取材によると現金被害額は2016年1月～昨年12月末までの3年間で、45万円以上。このため体育センターは昨年10月、武道館入り口にカードキーシステムを導入している。武道館はそれ以前、日中は施錠されておらず、誰でも入場できる状態だった。

(西村大祐II社会学類1年、森賀遼太II社会学類2年)

同課によると、この3年間に筑波大体育施設で発生した盗難件数は報告されただけでも19件。うち昨年の11件(現金被害額8万8千円)が最多で、17年は3件(パソコンや剣道の防具なども盗まれている)。

一方、施設別の被害は、中央体育館が7件と最多で、武道館が6件、体育系サークル会館が3件、プールが2件、球技体育館が1件だった。これらのうち更衣室での被害が全体の約半数を占めたという。

同課によると、盗難の大半は被害に遭った学生が部やサークルの活動中に発生。施設内の鍵付きロッカーを未施錠のまま利用したため、財布などが盗まれた例もあった。



新設されたカードキーシステム(昨年12月19日、武道館で) = 西村大祐撮影

盗難事件の多発などを受けて、体育センターは、昨年10月15日、武道館入り口を学生証や職員証をかざすことで開錠する仕組みに変更。この際、入場に使った学生証や職員証の学番号、職員番号が記録されるという。同センターによると、これ以前、武道館は午前6時～午後9時の間、入り口は無施錠で、学外者の無断立ち入りや後を絶たなかったという。

同センター長の山田幸雄教授(体育系)は「カードシステムが犯罪の抑止力になることを期待している。施設利用の学生は今回の設置を機に、防犯意識を高めてほしい」と語った。

# 筑波大生 12年ぶり箱根

## 相馬「山登り」5区出走



箱根駅伝5区を力走する相馬選手(1月2日、神奈川県箱根町大平台で) = 木村誠撮影

筑波大学陸上競技部の相馬崇史選手(体專2年)が2、3日の第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に関東学生連合チームIIの一員として往路5区に出走した。筑波大生の箱根駅伝出場は大城将範選手(平成21年度リスク工学専攻修了)以来12年ぶりの快挙。関東学生連合チームは正式な順位はつかないが、相馬選手は1時間14分45秒と区間13位相当の走りを見せた。(木村誠II社会学類2年、秋田耕平II社会学類3年、加藤優花II国際総合学類1年、森賀遼太)

昨年10月13日の箱根駅伝一位となり、本戦の出場を逃した。個人67位に入った相馬は2年連続で選出。昨年は予選会で筑波大は全体で17位だった。個人67位に入った相馬は2年連続で選出。昨年

は右アキレス腱の故障で欠場したが今年「山登り」と呼ばれ、全長20.8キロで高低差が8000以上ある往路5区に出走した。チームは4区と5区の間的小田原中継所(神奈川県小田原市)で相馬選手が繰り上げスタートした。上り坂が得意な相馬選手は、順位を9つ上げ、区間13位相当で走り終えた。沿道では、筑波大の旗を持ったOBらが多数応援。「序盤5時は練習の疲労が残りが、体が思うように動かなかった」と話した相馬選手は、「沿道の大きな声援が心強かった。満足いかない結果だが今の実力は出し切れた」とも語っていた。

関東学生連合チームII箱根駅伝予選会で出場権を得られなかった大学から、個人成績が優秀な選手を抜抜して構成される箱根駅伝出場チームの一つ。

繰り上げスタートの中継所で規定の時間内に前の走者が来なかった場合に次の走者を出発させること。

「ファーストペンギン」。集団で行動するペンギンの群れの先頭に立ち、エサを求めて海へ最初に飛び込む一羽のことだ。転じて、前例のないことにも挑戦する人を指す▼その代表例は、元サッカー日本代表の本田圭佑だと思ふ。豪州リーグで選手として活躍する傍ら、昨年8月にカンボジア代表の実質的な監督に就任。豪州とカンボジアを往復し、プレーと指導の両立に励む。現役選手でありながら代表チームを指揮するのは世界初の試みだ▼だが挑戦の道は険しい。監督就任から初勝利までに6戦を要した上、国際サッカー連盟(FIFA)が決める代表チームの順位FIFAランキングでカンボジア代表は本田の監督就任以降、166位から172位に下降した(昨年12月現在)▼それでも本田は歩みを止めない。「簡単に成功するとは思っていない」と話し、カンボジア代表の選手と1対1の面談など、綿密なコミュニケーションを図る。また、選手活動の合間を縫って代表チームの対戦相手の分析を行うなど、献身的な活動に取り組む。本田は勝利を目指し突き進む▼年が明け、筑波大学新聞の副編集長になった。今後事実を求め報道を続ける中で、挫折も生まれるだろう。それでも本田のように挑戦していきたい。本田は「挫折は成功の過程だ」と言う。自分もいつの日か「ファーストペンギン」になれるだろうか。

### 筑波お話し

「ファーストペンギン」。集団で行動するペンギンの群れの先頭に立ち、エサを求めて海へ最初に飛び込む一羽のことだ。転じて、前例のないことにも挑戦する人を指す▼その代表例は、元サッカー日本代表の本田圭佑だと思ふ。豪州リーグで選手として活躍する傍ら、昨年8月にカンボジア代表の実質的な監督に就任。豪州とカンボジアを往復し、プレーと指導の両立に励む。現役選手でありながら代表チームを指揮するのは世界初の試みだ▼だが挑戦の道は険しい。監督就任から初勝利までに6戦を要した上、国際サッカー連盟(FIFA)が決める代表チームの順位FIFAランキングでカンボジア代表は本田の監督就任以降、166位から172位に下降した(昨年12月現在)▼それでも本田は歩みを止めない。「簡単に成功するとは思っていない」と話し、カンボジア代表の選手と1対1の面談など、綿密なコミュニケーションを図る。また、選手活動の合間を縫って代表チームの対戦相手の分析を行うなど、献身的な活動に取り組む。本田は勝利を目指し突き進む▼年が明け、筑波大学新聞の副編集長になった。今後事実を求め報道を続ける中で、挫折も生まれるだろう。それでも本田のように挑戦していきたい。本田は「挫折は成功の過程だ」と言う。自分もいつの日か「ファーストペンギン」になれるだろうか。

# 金栗四三を描く大河ドラマ『いだてん』 学内で特別展など開催

## 制作に筑波大協力

日本人初の五輪マソン選手で筑波大学の前身・東京高等師範学校出身の金栗四三を描く2019年NHK大河ドラマ『いだてん』東京オリムピック囃しの放映開始(6日)を受け、筑波大では金栗の特別展を開催するなどのさまざまな活動が始まっている。またオリムピック歴史研究が専門の真田久教授(体育系)などがスポーツ史の考証を担当するなど、番組には筑波大関係者が関与している。これらの活動をまとめた。(牧田宗太、社会学類2年、木村誠)



(左) ドラマの主人公・金栗四三 (右) 金栗の恩師で東京高等師範学校校長の嘉納治五郎=事業開発推進室提供

### ■金栗・嘉納特別展

22日から12月25日まで、筑波大体育センターや東京キャンパスなどで開催されている。体育センターで開かれている「金栗四三特別展」では金栗本人使用の足袋や直筆の書、筑波大所蔵の書籍や写真などを展示。また、筑波大体育センター前ホールで開かれている「嘉納治五郎特別展」では、嘉納の東京高等師範学校での教育活動などを展示している。開館時間は一部会場を除き、午前9時30分〜午後5時で、月曜は休館。観覧料は「金栗展」のみ300円で、他は無料。

### ■熊本県と連携協定

筑波大は昨年12月1日、金栗の出身地・熊本県などと、スポーツを通して地域活性化を図る連携協定を締結した。同県のほか、金栗の出生地・和木町、出身校の玉名北高等学校(当時)があった南関町、金栗が人生の半分以上を過ごした玉名市が参加。金栗の功績を

# 筑波大公式アプリ開発

## 4月以降に配信予定

筑波大学は寄付金を集めることを主な目的に、スマートフォン向け公式アプリの配信を4月以降に始める。アプリには寄付金の受付機能のほか、筑波大に関するニュースの配信機能なども備える予定だ。(田所涼、教育学類1年、木村誠)

筑波大は2023年10月の開学50周年に合わせ、昨年6月、「創基151年筑波大学50周年記念基金」を設立し、寄付を募っている。筑波大事業開発推進室によると、同基金の目標額

# 「掻い掘り」で庭園を改修

## 東京キャンパスの占春園



外来生物を捕まえる子どもたち (1月13日、東京都文京区で)

筑波大学東京キャンパス(東京都文京区)の庭園「占春園」(約1.2平方メートル)にある「落葉池」(約4.23平方メートル)の水を抜く「掻い掘り」が13日、筑波大などの同窓会組織、茗溪会(東京都文京区)の主催で行われた。清掃と外来生物の駆除が目的で、文京区周辺の地域活性化を目指すNPO法人などが協力。一般募集で集まった小学生約30人と、その保護者が参加した。

筑波大が所有する占春園は庭園内の荒廃が進み、昨年3月まで立ち入り禁止だった。茗溪会は17年9月

から今年6月まで、同園の改修や整備などを目的に「占春園再生プロジェクト」を行っており、今回の掻い掘りはその一環。当日、小学生は気温5〜6度のもと、午前10時から1時間半ほど池の中で活動。網やバケツを持ち泥水の中でコイやミシシッピアカミミガメなどの外来生物を探した。

参加した小学生は「コイは巨大でめぐるのしつが、頭を抱え込んだら捕まえられる。寒さや泥汚れは平気だった」と話した。茗溪会事務局長代理の岩田敏昭さんは「子どもたちが楽しそうだった。奇麗になった占春園を見るのが楽しみ」と話した。(後藤佳怜、社会学類1年、写真も12面に関連写真)

### 米国支援で授業開設

#### 「アートセラピー入門」

筑波大学は米国の資金提供を受け、欧米で普及する心理療法「アートセラピー」を紹介する授業「アートセラピー入門」を、5月から村助九郎、東京高等師範学校校長でアジア人初の国際オリンピック委員会委員の嘉納治五郎を役所広司が演じる。金栗が嘉納の勧めでストックホルム五輪に出場する様子や、嘉納が東京五輪招致に奮闘する姿などが描かれる。

### 「いだてん」

日本が初参加した1912年のストックホルム五輪から、戦争で返上した40年の東京五輪などを経て、64年の東京五輪までのドラマ。主人公の金栗を中

の骨と判明したことを機に、その全身骨格模型などを展示する展覧会が昨年12月3日から1月31日まで筑波大学サテライトオフィス(つくば市吾妻)で開かれている。同展覧会では、調査の結果、パレオパラドキシアの右大腿骨であることが判明し、大きな反響を巻き起こした。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、その3D動画が見られる。展示世話人の上松佐知子

# 筑波大収蔵庫で発見

## パレオパラドキシア展示会

筑波大学の古生物標本収蔵庫で60年以上保管されていた化石が、1000万年以上前に絶滅した海洋哺乳類「パレオパラドキシア」



パレオパラドキシアの骨の展示 (昨年12月19日、つくば市吾妻で)

の骨と判明したことを機に、その全身骨格模型などを展示する展覧会が昨年12月3日から1月31日まで筑波大学サテライトオフィス(つくば市吾妻)で開かれている。同展覧会では、調査の結果、パレオパラドキシアの右大腿骨であることが判明し、大きな反響を巻き起こした。展示ではパレオパラドキシアの化石の实物と、その3D動画が見られる。展示世話人の上松佐知子

# 広告掲載欄

広告のお問い合わせは

電話 029-853-6699

メール shinbun@un.tsukuba.ac.jp



# 東京大学新聞

1920年の創刊以来、東京大学の「今」を発信し続ける。最新の学術動向から身近な学内トピックまで、日々東京大学から発信される旬なニュースを週刊でお届け。通常号のほか就職、大学院、受験、資格、入試等、テーマ別の特集号も含め年間42回発行。東京大学情報本『東大2018 東大オモテウラ』1,620円(税込)。東京大学新聞年鑑2017-18『はじめての東大』1,620円(税込)。公益財団法人 東京大学新聞社。〒113-8691 東京都文京区本郷7-3-1 東大構内。電話 03(3811)3506 E-mail post@utnp.org ウェブサイト http://www.todaishimbun.org/company オンライン版 http://www.todaishimbun.org/

### 「つくば経済新聞」

#### ウェブでスタート

つくば市などのニュース記事を掲載するウェブサイトを「つくば経済新聞」が昨年12月10日に始まった。同サイトは地元のイベントに

だが、この分野の専門家はいなかった。講座開設を機に、学生にアートセラピーを知ってほしいと語った。(遠子内早紀、教育学類1年)

(木村誠 森賢達)



退職教員4人に聞く

# 教員人生の軌跡

多種多様な専門を持つ教員がそろって筑波大学。今春も教育者として、研究者として、さまざまな経験を積んできた多くの教員が定年退職を迎える。4人の教員にその軌跡を聞いた。(小池深太郎比較文化学類、中村瑞歩日本語・日本文学文化学類、後藤佳佳、牧田宗大社会学類、竹添そら知識情報・図書館学類)

## 学生との議論を 楽しむ

宗教と社会との相互関係について研究する「宗教社会学」が専門。2007年から日本宗教学会の会長を務め、宗教学研究の発展に尽力してきた。

早稲田大学文学部人文科学卒業。ヨーロッパの社会や文化を学ぶ中で、宗教の影響力の強さに関心を持った。近代社会の成立に宗教が大きな役割を果たしたことを説いたマックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読み、宗教学会に強くなりきつつけられた。

その後、筑波大学大学院に進学。博士課程修了後、愛知学院大学教授などを経て、01年に筑波大教授となった。05年に各国の宗教の教義や歴史などを分かりやすく解説した『宗教入門』(ミネルヴァ書房)を著した。同書は宗教学自体の歴史をはじめ、用語解説や宗教学を学ぶ上での図書館やインターネットの利用方法なども紹介。宗教学の入門書として広く読まれている。現在の宗教をどう考える上で、注目したのは聖地や霊場を巡らす「宗教ツーリズム」。

## 現代の聖地創造を研究

## 手探りの中 研究を続けた

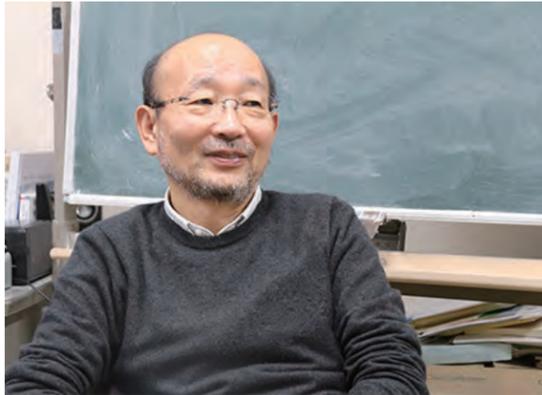
図書館情報学の中でも、主に図書館の図書の配列に利用される分類法の研究を行ってきた。高校生の頃は社会科学系の学術書をよく読んでいた。理論的な学問分野が好きだったため、物理に興味を持ち、慶應義塾大学工学部へ進学した。

転機は就職活動。同大学院工学研究科修士課程在学中に、本好きが高じて本に携わる職業に就きたいと考え、国立国会図書館の就職試験を受験。試験には落ちたが、同大の教員に誘われ、同大学院文学研究科図書情報学専攻修士課程に進んだ。大学院では理系研究者の学術書の利用手

段や利用目的、研究者間で学術情報の引用方法を研究した。大学院修了後、図書館情報学専攻の助手として着任。図書の分類の研究を始めるきっかけは、その4年後に訪れる。当時、図書の分類に関する授業を行っていた藤川正信教授(当時の学長就任に伴い、担当授業とともに研究も引き継ぐことになった。『当時は図書の分類の研究はあまり盛んではなく、研究論文と呼べるものがほとんどなかった。最初のうちは手探りだった』と話す。

研究を進めるうちに、図書の分類は実際の図書館業務の中で生まれたものが多く、経験則に基づいた手法が多いと感じた。それまで曖昧だった分類法の理論

ら初めて論じた『宗教とツーリズム』聖なるものの変容と持続―(世界思想社)を著した。また、アニメの舞台やパワースポットなどが「聖地」として多くの人に注目していることにも注目。「伝統的な宗教とは異なり、メディアを活用し自分たちで新たに聖地を創造する新しい宗教現象として研究している」と語る。



山中弘 教授 (人社系・宗教社会学)

地球上の生物の中で最も多くの種類を持つ昆虫は、進化の過程が明らかでないものも多い。どのように進化したのかを解明するため、昆虫を採集し観察する

学生の問題意識を刺激するような授業を行うことを常に心がけてきた。「私の考え方を押し付けるのではなく、学生の考える基礎となる知識を教えることを重視してきた」と話す。また、授業では学生との議論を大切にしてきた。「私の意見への同調ではなく、自分の意見を言う学生がいると、新たな発見をすることがある」とほほ笑む。

退職後は「引き続き宗教学の研究を続け、自分な生き物なものを考えるようになった」と話す。高校時代には鳥にも興味を持つようになった。東京教育大学入学後、冬鳥の観察に行った菅平高原実験所

化を目標に研究を進め、日る各国の図書の分類法について本進分類法をはじめとする理論的に説明した『本を分類する』(勤草書房)を著した。同書では分類法の違いについて、初心者でも分かりやすく区別、解説した。教壇を去ることで「学生の新しい考えに触れる機会がなくなるのはさみしい」と話す。その一方で、「これからは自分の時間をたくさん持つ。興味のある分野の研究をしたい」と意気込む。

## 現地を訪れる 大切さを説く

東京都出身で、研究生活の原点は自身の旅行好き。高校生のとき親に秘密でバスケットを取得、韓国を旅行した。進学した愛媛大学では「4年間を1400泊の旅行に見立て、愛媛県内や近隣県へ毎日のように旅に出かけた」と話す。

大学で実際に現地を歩き情報を集めるフィールドワークの重要性と楽しさを知り、地理学研究者を志すようになった。そして、文た。大学院時代は、明治時代の観光地化がある。明治期の大火をきっかけに築

海浴場や街並みといった観光地の成立、変遷などを事例に、場所に対する人々の認識の研究を行ってきた。また、地域の食などを通じて、生活文化や人間が持つ価値観について研究した。

退学後は私立大学の非常勤講師として教育活動を続ける。研究生活を振り返り「自分の好きなことが仕事になった。こんなに幸せな人生はない」とほほ笑みながら語った。

## 昆虫進化の過程を探る

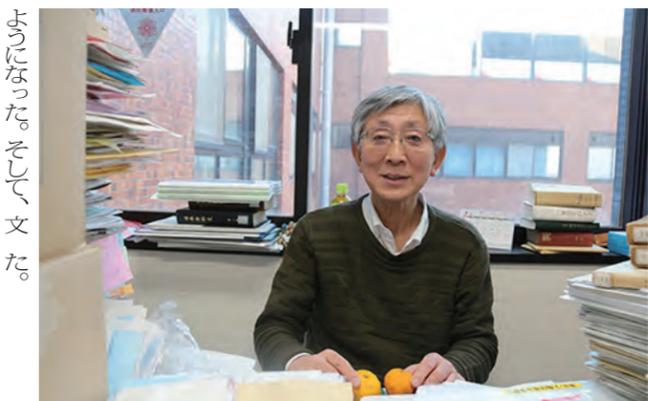
うち、22目の発生過程を明らかにした。2003年には「原始的昆虫を中心とする比較発生学」の研究で第1回日本節足動物発生学会賞を受賞した。



町田龍一郎 教授 (生環系・昆虫比較発生学)

で、その後の恩師となる昆虫学の安藤裕氏に出会った。安藤氏の研究室を最初に訪れた時、サツマゴキブリの胚を顕微鏡で見せてもらった。昆虫であるサツマゴキブリの成虫は3

対の足をもつ。だが、その胚には成虫にはないたくさんの足があった。成虫にはない足がなぜ発生の過程で失われたのかを明らかにする。その過程が明らかになると、その昆虫の進化の過程も分かる。



小口千明 教授 (人社系・歴史地理学)

感じていたかを研究。満期退学後は城西大学に9年勤めたのち、筑波大(日本語・日本文学専攻)に助教として着任した。授業では実際に現地を訪れることの大切さを強調した。年に数回は学生を全国へ連れて行き、景観からその土地の特色を読み解く学習(巡回)を実施した。

## 旅を原点に観光地調査

退職後は筑波大学の非常勤講師として教育活動を続ける。研究生活を振り返り「自分の好きなことが仕事になった。こんなに幸せな人生はない」とほほ笑みながら語った。

## 図書の分類方法を理論化



緑川信之 教授 (図情メ系・図書館情報学)

図書の分類方法を理論化する。図書の分類方法を理論化する。図書の分類方法を理論化する。



# 豊かな表現で世界観歌う

## 混声合唱団 定期演奏会

筑波大学混声合唱団の第43回定期演奏会が昨年12月8日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。演奏会は4つの合唱曲集が披露され、美しい歌声で来場した約370人を魅了した。



合唱を披露する混声合唱団の団員ら(昨年12月8日、ノバホールで)

第一部は寺山修司作詞、信長貴富作曲「カウボーイ・ポップ」。寺山修司が書いた独特な言葉遣いの5つの詩を、信長貴富が美しく歌える合唱作品として作曲した作品で、冒頭の狼の

遠吠えを連想させる口笛の音色とテナーの歌声が、カウボーイが活躍する西部劇の世界観を表現した。

第三部では、ドイツ語の作品「Zigeunerleder」(日本語訳「ジプシーの歌が歌われた。ヨーロッパ各地を移動しながら暮らす「ジプシー」青年の、恋人との幸せな日々や別れを表現した詩に合わせ、時に軽やかに時に荒々しく曲調が変化する。力強い男声と悲しげな女声、ジプシーの恋を感情豊かに歌いあげた。

渡邊千谷元団長(教育3年)は、「1年間、練習を重ねてきたが、本番はあっという間に終わってしまった。一瞬一瞬に気持ちを込めて歌うことができた」と語った。(遠子内早紀 写真)

## 蠟型ブロンズ彫刻展 日伊の文化交流をテーマに

中村義孝教授(芸術系)が研究する特殊な製造法を用いたブロンズ(青銅)彫刻の展覧会が昨年11月6日から同年12月22日まで、大学会館など筑波大学内の3会場で開催され、中村教授らイタリアと日本で活躍する彫刻作家32人の約50点が展示された。

この製造法による彫刻は「イタリア式蠟型ブロンズ彫刻」と呼ばれ、1950年代にイタリアから日本に伝わった。従来の青銅彫刻では彫刻家は石こつや粘土で原形を作るとだけ



稀勢の里の顔をイタリア式蠟型ブロンズ彫刻で表現した作品「力士」=中村義孝教授提供

教授は作品について、「日伊両国の相互交流がテーマ。日本を代表する文化の一つである相撲をイタリアから伝わった製造法で表現したかった」と話した。

展示について、中村教授は「イタリアと日本の彫刻家の協力があってこそ成り立った展示。じっくりと作品を味わってほしい」と話した。(大森春歌 芸術専門学群1年)

原形「青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

会場ではモーツァルトの『アイネクライネナハトムジーク』の第一楽章や『シンガムベル』などのクリスマスマドレーをプロの弦楽四重奏団が演奏。モーツァルトの曲に合わせ、ブラネタリウムの天球を上に登らせん状の光の筋のアニメが投影された。また、クリスマスの華やかなメロディに合わせアニメのサンタやトナカイが空を駆け、会場から歓声が上がった。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

## 星空コンサート開催

### 音楽と映像のコラボ

つくばエクスポージャー(つくば市吾妻)のプラネタリウム内で昨年12月15日、クラシック音楽の生演奏と、音楽に合わせた映像を楽しむ「第31回星空コンサート」が開かれた。同コンサートは2016年から定期的に開催。今回は映像として芸術専門学群の学生が卒業制作で作成したアニメーションが投影された。

映像を制作した高松航希さん(芸専4年)は、「使ったアニメは1秒あたり30枚の画像が必要だった。時間が少なく苦労した」と語った。コンサートの中盤では、エクスポージャーの職員がオリオン座やおおいぬ座などイベント当日につくば市内で見られる星座の解説もした。(遠子内早紀、12面に関連写真)

## 俳句 筑波大

「ランタン」・ランタンに煙るが如き霜夜かな  
・この街の冬よランタン七千余  
・ランタンのあかり地を這ふ十二月



つくば市吾妻で中村瑞歩撮影

昨年12月15、16日につくば駅周辺で催されていた「ランタンアート2018」を通りすがりに見た。クリスマスマンというともあり都市の冬の風情があった。「ランタン」という言葉の響き自体が不思議で心惹かれる。オランダ語かと思ったら英語らしい。なぜオランダ語と誤解したのか省みれば「ジャック・オ・ランタン」に「オランダ」が隠れているのであった。こんな夕ジャレを言う人間にも風情は分かる。(文・俳句 堀下翔 文芸・言語専攻1年)

## 絶対音感

### 筑波大学吹奏楽団

筑波大学吹奏楽団の第80回定期演奏会が昨年12月7日にノバホール(つくば市吾妻)で行われた。演奏会のテーマは「世界旅行」。様々な旅を表現した全9曲で観客を楽しませた。演奏会は3部構成。第一部の最後に演奏されたのは「大いなる約束の大

地「チングス・ハン」だ。指揮者の松下虎太朗さん(日自9年)は「日本の伝統音楽とモンゴルの民謡の『出会い』を表現した」と話。冒頭、日本の雅楽を思わせるフレーズをフルートのソロが妖しげに奏でる。合間には、バストラムや拍子木といった打楽器が象徴的に鳴り響き、会場は静かな緊張感に包まれた。

その後、金管楽器が雅楽風の旋律を奏で、打楽器のドラや鈴も加わり、重厚感が増した演奏で盛り上がりは最高潮に。だが、ここで場面は一転。スネアドラム(小太鼓)が軽快なリズムを刻み、モンゴル民謡を

模したピッコロが加わる。その旋律は、モンゴルの大草原を駆け抜ける騎馬を彷彿とさせた。ピッコロのソロが奏でたモンゴル民謡の軽

快な旋律はさまざまな楽器に引き継がれていく。その中で、金管楽器が前半の雅楽風の旋律を再度奏でる場面がある。日本とモンゴル、国境を越えた2つの音楽が「出会い」瞬間となった。一説によると、モンゴルの民謡は日本の小唄に取り入れられたという。もしそうならば、ここは「出会い」ではなく、「再会」。確かに2つは見事に調和していた。

第二部で演奏された「Around the World in 80 Days」は、小説「80日

間世界一周」をテーマとした吹奏楽曲だ。小説は、仲間と「80日間世界一周をできなければ全財産を失くす」という賭けをしたイギリスの資産家フォックが、世界一周を遂げるまでを描く。曲は旅の始まりを表す金管楽器の華やかなファンファーレで始まり、機関車でロンドンからスエズへと移動する様子やスネアドラムやトロンボーンで表現した。その後、アラビアンナイトの世界を思わせる妖艶なフルートとクラリ

ネットが続く。合間には象の鳴き声を模した金管楽器の音色が響き渡る。またシンセサイザーによる鋭い音でアメリカ西部を表すなど、道中に立ち寄ったさまざまな国を音楽で表現した。また、訪れた国ごとに照明の色も変え、会場を盛り上げた。

最後は、旅の成功を祝して冒頭と同様のファンファーレ。筑波大学吹奏楽団による世界旅行は、大きな拍手と共に幕を閉じた。(中村瑞歩 日本語・日本文化学類2年、写真も)

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

## 旋律と音色の変化で「世界旅行」

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

「原形」青銅彫刻を作る際、土や石こつなどで作るものとなる形。

**鬼界 彰夫 教授 (哲学)**

人文社会系・教授。ニューヨーク市立大学大学院でPh.D.取得。中央大学非常勤講師などを経て、2006年から現職。著書に、『ワイトゲンシュタインはこう考えた』(講談社)などがある。

研究者になって以来私は、人間にとって言語とは何かという強い関心をもち続け、言語哲学という領域で研究を続けてきた。とりわけここ20年はワイトゲンシュタインという哲学者の研究に没頭してきた。彼が言語について誰よりも徹底的に考え抜いていて、その思考を辿ることに他の方法ではできないほど深く言語について考えることができるのを感じたからだ。しかし彼の著作に出会ってすぐその研究を始めた。構成的な探究を受

めた訳ではない。私は彼の研究を研究者キャリアのようなく後半になって始めたにすぎない。振り返ると私の研究はさまざまな出会いと偶然に導かれて来た。

大学院に入学した年、哲学科の先輩からワイトゲンシュタインの『哲学探究』の読書会に誘われた。最初数回だった参加者は次第に入れ替わり、2年後に読了したとき、最初からの参加者は私だけだった。当時私は17世紀の哲学を専門としていたが、『哲学探究』の読書体験は強烈な印象を残した。その全く新しい思考に強く惹かれた。だがその不思議な文体と構成が実証的な探究を受

事情が大きく変わったのは1990年代後半だ。他の研究との関係で彼の晩年の著作を読み始めたとき、大阪大学におられたワイトゲンシュタイン研究者の奥雅博先生(故)から、ワイトゲンシュタインの全遺稿が電子版として近々刊行されることを教わるとともに、関連資料のコピーを頂いた。既刊の彼の書物が死後弟子たちにより編集されたものであるのに対して、彼自身の遺稿に直接接する機会により、彼の本当の思考の流れを

明らかにする可能性が感じられた。私は98年、彼に関する研究論文を初めて書き、彼の哲学の研究を開始した。奥先生との出会いがなければ、私のワイトゲンシュタイン研究は始まらなかっただろう。私の研究は先生に最も多くを負っている。

次の出会いは彼の「日記」(『哲学宗教日記』講談社、2005年)とのものである。彼の死後42年たった1993年に初めて存在が明らかになった日記を翻訳する過程で、かつて絶望感を感じた『探究』中の私的回想と思われる部分が、実は彼自身の哲学的過去に対する自省ではないかという可能性が見え、私の研究は新しい方向に向かった。その成果が昨年ようやく一冊の本(『哲学探究』)として刊行された。『探究』でいかなる書物か、勁草書房、2018年)になり、私はいま「思っている。同時に『探究』との古い出会いの記憶にしばし浸る」とある今日この頃だ。

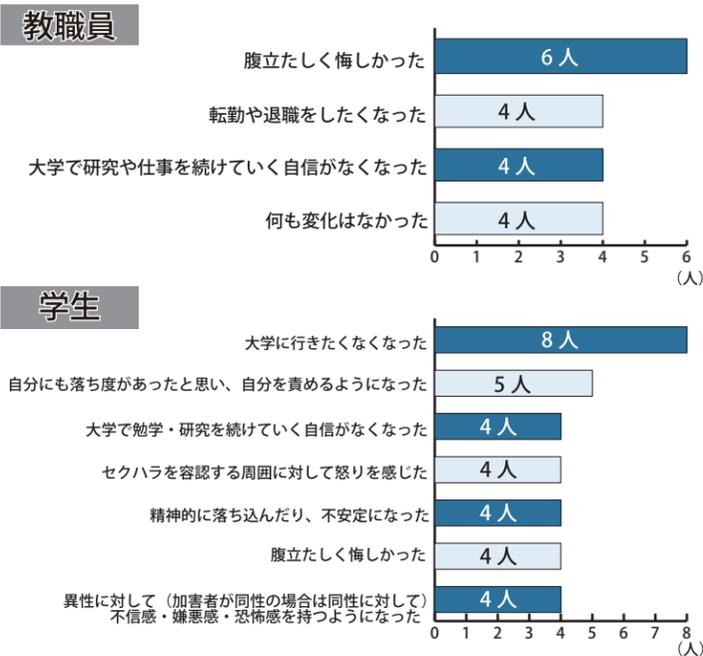
# 「大学に行きたくなくなった」

## 本紙 アンケートを実施

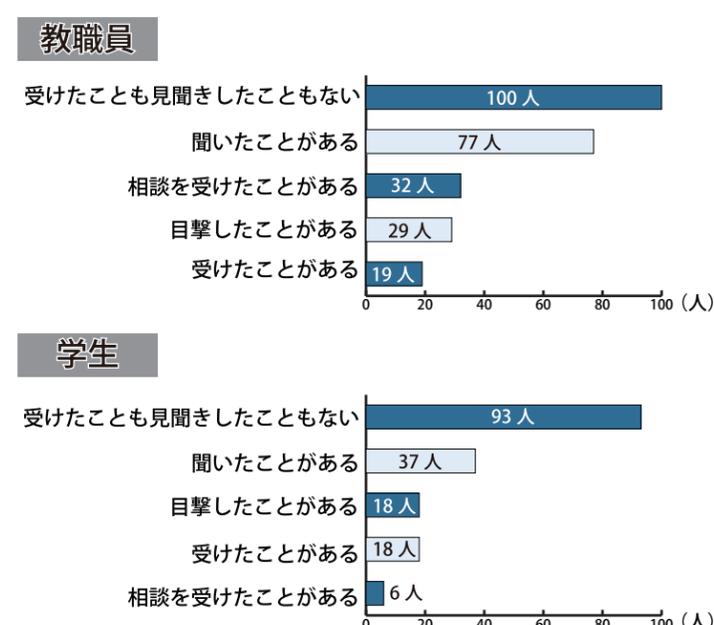
【「面参照」】「女は使えない」などの仕事に関する暴言を受けた「セクハラ」の被害を周囲に相談したことで、「お前が悪い」と言われ落ち込んだ。本紙が筑波大学についてセクハラの実態をアンケート調査したところ、さまざまな声が寄せられた。アンケート結果を分析した上で、筑波大の対応や、先進的な取り組みを行う広島大、そして被害者の声などを取材した。

(本紙取材班)

セクハラを受けた経験がもたらした影響 (複数回答可)



所属する研究室やゼミで、何らかのセクハラを受けたり見聞きしたことがあるか (複数回答可)



## 「セクハラ被害研究に影響」

### 調査結果

アンケート調査は昨年12月に実施。所属する研究室やゼミで何らかのセクハラを受けたことがある「目撃したことがある」、または「相談を受けたことがある」と回答した教職員は90人(46.4%)、学生は44人(30.3%)だった。

何らかのセクハラを「受けたことがある」と回答した学生18人のうち、セクハラを受けたときの立場は大学院生(研究生を含む)が12人、学部生が3人だった。また、相手の性別及び人数は「男性1人」が最多で9人、「男性複数」が5人と続いた。相手の立場は、「指導教員以外で同じ研究室・講座の教員」が最多で5人。次いで「上級生や先輩」「ゼミなどの指導教員」が4人だった。

### 自由記述

教職員からは、「容姿や、女は使えないなどの仕事に関する暴言を受けた」「教員も学生からセクハラを受けることがある。年齢や婚姻の有無などを公共の場で聞くことも、セクハラを受けた経験が3人だった。相手の立場は「男性1人」が最多で9人、「男性複数」が5人と続いた。相手の立場は、「指導教員以外で同じ研究室・講座の教員」が最多で5人。次いで「上級生や先輩」「ゼミなどの指導教員」が4人だった。

### 分析

今回の調査結果を識者はどう見るか。教育機関のセクハラ問題の解決や被害者支援に取り組む「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント・全国ネットワーク」会員の武田万子教授(津田塾大学)と、ジェンダー社会学が専門の小宮友根准教授(東北学院大学)に聞いた。

### 武田教授

今回の調査のように、被害者になりやすい学生の立場から大学のハラスメントの実態を調べ、対策を求めるのは意義深い。

調査には手法に改善の余地があり、セクハラに耐えながら研究を続けている人や、セクハラに苦痛を感じ

## 学生から教員へのセクハラも

くとも、セクハラになる。と知ってほしい▽女子学生への対応は(二人きりになる)研究室ではなく人目のあるラウンジを利用するなど気を付けている▽受け流す方法を身に付けた方がよいと思う...などの意見があった。

学生からは、▽指導教員と学生が同性的場合は、セクハラを気にかけてくれる機会が少ないと思う▽被害者を守る体制を整えるべきだと思うが、過度にセクハラを問題として対応する研究に支障が出るのは嫌だ...などの意見があった。

## 被害者の声

### 授業中のセクハラ発言

大学院生のBさんによる「ある男性教員が授業中、日本は本来草食の地域であると述べた上で、「(所謂)肉食女子は吐き気がする」と発言したという。教員はそれ以前の授業で、セクハラに対応する部署にいたことがあると話していた。

頻繁な連絡・食事の誘い 理系の研究室に所属するAさんは、研究室の教員から頻繁に食事に誘われたり、研究とは無関係の内容のメールを送られた。食事に誘われたのは、夜遅くまで実験をして他の教員や学生が帰る、研究室で相手と二人きりになった時。「友達の関係じゃないのに」と言え、やんわりと断った。相手に教わらな

## 「態度で示さぬお前が悪い」

は、研究の進め方にも支障が出たという。その後、研究室の他の人に相談した。だが、相談相手の中には「嫌だ」という態度をほっきり示さないお前が悪い」と言う人もおり、「つらい思いをしている自分がかげ責められるのか」と気分が落ち込んだと話した。

### 視点

今回の調査では、筑波大のセクハラ防止の取り組みが学生に知られていない現状が明らかになった。筑波大は2005年以降、ガイドライン制定や相談窓口の設置などの体制づくりを進めてきた。だが今回の調査で、こうした取り組みを「知っている」と回答した学生は、145人のうち36人(24.8%)だった。また、セクハラを「受けたことがある」と回答した学生18人のうち、学内の相談機関を利用したのは1人だけだった。

## 取り組みの周知 目指せ

これらの結果を見て、研究への意欲を削ぐことが明らかになっており、こ

### おこたわり

今回のアンケートでは筑波大学の教職員が調査の対象になりました。このため記事の客観性を保つことを考慮し、今回、筑波大の教職員の見解は取材しておりません。ご了承ください。

## 学生の調査 意義深い

この背景には、日本の多くの大学で、女性の研究者が少ないうえ、職位が上になるほど、男性が多数で、周囲の人間に相談できない状況が改善しないまま、大学がセクシュ

### 小宮准教授



小宮友根准教授

注目ののは、被害が起った際の(筑波大の)相談体制に見直すべき点があるのではないかということだ。教職員・学生共

この背景には、日本の多くの大学で、女性の研究者が少ないうえ、職位が上になるほど、男性が多数で、周囲の人間に相談できない状況が改善しないまま、大学がセクシュ

## 相談体制に課題

これらの結果を見て、研究への意欲を削ぐことが明らかになっており、こ



# 雪辱果たす勝利

## 全日本インカレ 9年ぶり優勝

### 主将・丸尾のスパイク光る



インカレで最優秀選手賞に選ばれた丸尾(中央)(昨年12月2日、青山学院大戦で) = 飯田健介撮影

【大田区総合体育館(東京都大田区)で建内亮太(人文学類2年、飯田健介(社会学類2年、12面に関連写真)大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年11月27日から12月2日に行われ、筑波大女子が9年ぶりの優勝を果たした。また、丸尾遥香(体育専4年)が最優秀選手賞とブロック賞、万代真奈美(同2年)がセッター賞、鏡原叶悠(同2年)がリベロ賞を受賞した。

準々決勝までストレートで勝ち上がった筑波大。1日の準決勝では、秋季関東大学リーグ戦で敗北した松蔭大を3-1で破り、3年連続の決勝戦へと駒を進めた。2日の決勝では、前回のインカレ決勝で敗北した青山学院大と対戦。相手の粘り強い守備に苦しめられたが、主将の丸尾を中心にチーム一丸のプレーを見せ、試合を3-1で制し昨年の雪辱を果たした。

第1セット、序盤は一進一退の攻防が続いた。中盤で青山学院大のスパイクに苦しめられ、そのまま19-23まで差をつけられた。だが、丸尾が勝負強さを見せ、スパイクやブロックで6連続得点。25-23でセットを先取した。

第2セットでは、筑波大は第1セット終盤からの気迫のこもったプレーを継続。川上雛菜(同2年)や山城愛心(同2年)の鋭いスパイクで得点を重ね、このセットを25-21で奪取した。第3セット、序盤は拮抗した展開に、次第に筑波大が流れをつかみ、先に20点に到達。しかし、青山学院大のスパイクなどで4連続失点を喫し、逆転を許した。その後相手手の粘り強いプレーに対し、丸尾のブロックや鏡原のレシーブで応戦するもボールがつかわず、22-25でこのセットを落とした。

続く第4セットを取って勝利を決めた筑波大だったが、序盤で長いラリーをものにできない展開が続いた。だが、山城の強烈なスパイクで勢いに乗り、14-14の同点につけると、そのまま流れを渡さず、攻勢をかけた。筑波大がリードした状態に進んだが、試合終盤、筑波大は青山学院大の力強いサーブやスパイクを抑えきれず、20-22で逆転を許した。だが、山城がスパイクで流れを取り戻し、第1セット終盤から好調を維持していた丸尾もブロックやスパイクで得点。25-23で接戦を制し、筑波大が悲願の優勝を決めた。

主将の丸尾は「1点ずつ積み重ねることを意識して戦った。優勝できてうれしいうれしさをあらわにした。中西康己監督(体育系・准教授)は「青山学院大は強いスパイクを捨ててくるので、粘り強くつなぐプレーを意識した。優勝はチーム全員の努力の結晶だ」と選手たちを勇らせた。

第24回全日本ラート競技選手権が昨年12月15、16日につくばカピオ(つくば市竹園)で行われた。男子総合では高橋靖彦(平成24年度体育専攻修了)が、女子総合では松浦佑希(体科後期2年)がそれぞれ優勝を挙げた。高橋は大会7連覇を達成し、松浦は大会2連覇中の堀口文(体育系・)

特任助教)を抑え、3年ぶりの優勝に輝いた。松浦は得意の跳躍で難度の高い「後方宙返り2回ひねり」を成功させ、2位の堀口に1・15点と大きく差をつけ1位となった。松浦は「後方宙返り2回ひねり」を成功させたい一心で練習していたのでうれし。周囲の支えあっての結果。感謝の気持ちでいっぱいだと話した。(鈴木瑞穂(人文学類3年)



相手選手を振り切る犬飼(左)(昨年12月17日、駒澤大戦で)

# 2年連続ベスト8敗退

## 無冠でシーズン終える

全日本大学選手権

【柏の葉公園総合競技場(千葉県柏市)で飯田健介(社会学類2年、写真も)大学日本一を決める全日本大学選手権(インカレ)が昨年12月12日-22日に行われた。筑波大は17日の準々決勝で駒澤大と対戦し、1-2で敗れ、2年連続のベスト8に終わった。筑波大は15日の2回戦で仙台大と対戦した。東北大学リーグ優勝校に対し、三笠(体育専3年)らが躍動。前半だけで3点を奪った。圧倒的な攻撃力を見せ、4

1-1で勝利した。準々決勝の相手は関東大学リーグ最終戦で惜敗した駒澤大。競り合いに強く、縦に鋭い攻撃を仕掛ける相手に対応できず、1-2で敗れた。試合は前半から激しい攻防が続いたが、互いにチャンスを生かし切れない展開が続く。前半終了間際、ボールを受けた会津雄生(同4年)が中央に折り返し、三笠が合わせたが、ポストに直撃。先制とはならなかった。後半も拮抗する中、犬飼翔洋(同3年)が山原怜音(同1年)からのクロスを受けてシュートを放ち、ネットを揺らしたと思われ

たが、オフサイドの判定。先制点が取れず苦しむ中、66分、筑波大は自陣左サイドを崩され、失点を許した。このまま駒澤大ペースで進むかと思われたが、75分、西澤健太(同4年)のCKを犬飼がゴールに押し込み、同点に追いついた。だがその直後、77分に相手のスローインから中央突破され失点を喫した。その後筑波大は追いつくことができず、試合終了。無冠でシーズンを終えた。

主将の小笠原佳祐(同4年)は「絶対に勝つつもりで試合に臨んだが、完全に力負けしてしまい悔しい。この悔しさを後輩たちは生かしてほしい」と話した。

Jリーグクラブに入団が内定した筑波大学蹴球部に所属する選手5人の合同記者会見が、昨年12月26日に筑波大本部棟で行われた。プロ入りが内定したのは、西澤健太(体育専4年) || J1清水エスパルス、鈴木大誠(同4年) || J2徳島ヴォルティス、会津雄生(同4

年) || J2FC岐阜、小笠原佳祐(同4年) || J2(来季J3) ロアッソ熊本の5選手。会見では病欠した小笠原以外の4選手が新チームでの活躍を誓った。西澤はユース時代に在籍した清水へ復帰。清水ではユース出身者が大学を経由してクラブに加入するのは初となる。西澤は「必ず清水に戻ると決意していたのでうれしい。クラブの期待にこたえたい」と話した。小井土正亮監督(体育系・助教)は「関東大学リーグ戦や全日本大学選手権(インカレ)での優勝、天皇杯での16強入りなど、筑波大の新たな歴史を築いてくれて感謝している。プロ入り後の成長にも期待している」と5選手を激励した。(飯田健介)

男子81kg級佐々木優勝 各階級の世界ランク上位16人が出場するワールドマスターズが、昨年12月15、16日に中国・広州で行われた。男子81kg級で世界ランク13位の佐々木健志(体育専4年)が優勝を果たした。2日目の男子81kg級、佐々木の初戦の相手は世界ランク1位のモラエイ(イラン)。強敵相手に1分59秒で技ありを奪い、更に2分23秒に一本背負投で一本を決めた。好スタートを切った佐々木は、続く準々

決勝、延長戦までもつれたが、延長9秒で一本を奪取。準決勝では開始約1分で相手に技ありで先制されたものの、直後に技ありを奪い返した。激しい攻防の中、2分44秒で再び技ありを奪い、合わせ技一本で決勝進出を決めた。決勝ではラビナゴフ(ロシア)と対戦。長い攻防の中で、中盤に相手に指導が与えられた後、なかなか攻めきれない展開が続いた。だが残り32秒に横車で技ありを奪い、そのまま優勢勝ちで優勝に輝いた。(池田花於里(比較文化学類2年)

「完全に力負け」

# Jリーグ入団会見

## 5選手が内定

男子81kg級佐々木優勝

柔道

男女アベック優勝

全日本ラート選手権

体操

# 広告掲載欄

広告のお問い合わせは

電話 029-853-6699

メール shinbun@un.tsukuba.ac.jp

# 全日本大学選手権 男女共にベスト4

【大田区総合体育館(東京都大田区)で加藤優花(国際総合学類1年、写真も)が昨年12月10-16日に行われた全日本大学選手権(インカレ)で、筑波大は男女共に3位決定戦に進出したが、女子は58-61で白鷗大に敗北、男子は63-76で日本大に敗れ、共に4位で大会を終えた。優秀選手賞には主将の高辻真子(体専4年)と牧幸利(同3年)が選ばれた。

## バスケット

■女子

14日、筑波大は準決勝で愛知学東大と対戦。高辻を主軸とした攻撃の連携を見せたが、相手の攻撃を抑えられず、62-79で敗北した。15日の3位決定戦では白鷗大と対戦。終盤まで点の取り合いが続いたが、筑波大は一步及ばず敗れた。第1ピリオド、序盤から攻勢をかけた筑波大は木村珠貴(同4年)や高辻(同1年)を中心に流れをつかんだ。第2ピリオド、序盤、筑波大は白鷗大の高さのある攻撃に苦しんだ。だが佐藤由璃果(同2年)のシュートを決められ45-47



第3ピリオド、点差を離そうとシュートを放つ佐藤由璃果(昨年12月15日、白鷗大戦で)

し前半終了。第3ピリオドでも佐藤由璃果が躍動し、得点を重ねた。しかし徐々に白鷗大に点差を詰められ、互いにリードを争う激しい展開に。終盤、白鷗大に3Pシュートを決められ45-47

とリードを許した。第4ピリオド、筑波大は積極的にリバウンドを取りシュートを狙った。終了直前に筑波大は3Pシュートを打ち同点を狙ったが、得点には至らず58-61で敗れた。主将の高辻は「大会を乗り切ることがチームの目標だった。試合は負けしたが、最後まで勝利を諦めず楽しむことができた」と話した。

■男子

15日、準決勝に進出した筑波大は東海大と対戦。前半は主導権を握ったが、後半から追い上げを見せた東海大を抑えることができず59-75で敗れた。翌16日の3位決定戦、筑波大は日本大と対戦。日本大の連続得点から筑波大は試合の主導権を奪われ、63-76で敗戦した。

第1ピリオド序盤、筑波大は日本大の守備に苦しめられ、13-18で終えた。第2ピリオドになると一転、筑波大は攻撃の糸口をつかんだ。序盤は牧と森下(同3年)を中心に得点。牧の豪快なダンクシュートを起し前半を終えた。第3ピリオドは一進一退の攻防が続いた。筑波大は日本大のミスを誘い、積極的に攻撃を仕掛けた。筑波大はリードを保ち、51-49で第3ピリオド終了。第4ピリオドに入り、筑波大は日本大の高さを生かした攻撃を止めることができず逆転を許した。森下や菅原(同2年)らが粘りをみせたが、63-76で苦杯を喫した。

## 得点の好機生かせず

牧は「第2ピリオドで攻撃の流れをつかんだ時に大量得点できず、逆転を許してしまっ。4年生を勝

## 更なる一体感を

### 記者の目

今大会、筑波大は関東大リーグ戦以上に気迫と一体感を有し、全5試合を戦い抜いた。だが、これまでの道のりは順風満帆ではなかった。リーグ戦途中までチームを率いていた波多智也(体専4年)が怪我で離脱し、その後も故障者が続出。苦しい状況で、チーム



攻撃の機会をうかがう牧(昨年12月15日、東海大戦で)

をまとめたのが3年生の牧幸利(同3年)だった。全日本大学選手権(インカレ)直前、牧は「点が取れない時間帯に、いかに攻撃を防ぐかが課題。練習における基礎のディフェンスやリバウンドに対しての意識を徹底した」と語った。14日の青山学院大戦では牧を中心に選手が互いに声を掛け合い、気迫ある守備を展開。相手に主導権がある

一人が責任を背負っている。試合に出場している選手が牧の支えとなってほしい」と話す。一方、波多は牧についての責任感が強、一人で負い過ぎる一面がある。牧が仲間と共に戦うことができれば、どのチームにも勝てる」と述べる。

来年度のインカレは牧ら3年生が主体となる。選手それぞれが責任を分かち合い、より強固な信頼関係を築くことが必要だ。来年度こそ悲願のインカレ優勝へ。筑波大のこれから目が離せない。

(加藤優花、写真も) など、チームは不調に陥った。攻撃が上手くいかない原因を探る苦悩の日々。セッターがレシーブを行いたくない選手がトスを上げる場面など、常に悪い状況を想定して練習に臨んだ。そして迎えたインカレでは、安定したトスを回してチームの攻撃をけん引。見事優勝を果たし、目標だった「日本一」に輝いた。2年連続のセッター賞にも選ばれた。

## 8年ぶり入賞果たす

### 関東学生新人戦



果敢に攻める星子(右)(昨年11月25日、明治大戦で) = 西村大祐撮影

## 剣道

【東京武道館(東京都足立区)で西村大祐(人文学類1年)後藤佳侑(社会学類1年)関東学生新人戦が昨年11月25日に行われ、筑波大は3位入賞を果たした。同大会での入賞は優勝した2010年以来で、8年振り。

筑波大は圧倒的な強さを見せ、準決勝までの4戦を危なげなく勝ち上がった。準決勝では前回の新人戦で3位の明治大と対戦。先鋒戦は引き分けとなったが、次鋒戦では、近本太

## 明治大に敗れ3位

郎(体専1年)が相手にコテを取られた後に、メントドゥを取り返し、二本勝ちを決めた。五将戦、森山竜成(同1年)は序盤にコテを取られたが、相手の隙を突きメンを決めた。だが直後に相手からコテを取られ、二本負けとなった。中堅戦、三将戦は引き分けに終わり、続く副将戦では松崎賢士郎(同2年)がコテを取られ、一本負けを喫した。1-2で筑波大が追い込まれる中、大将戦では星子啓太(同2年)と梶谷彪雅が対戦。星子は、梶谷の胴が空いた一瞬の隙に引

き、弱点を見つめ直し、今後の大会に臨みたい」と語った。

## スポーツの顔

### バレー

セッターとして筑波大女子の攻撃をつかさどる。スパイカー一人ひとりの特徴に合わせ、「打ちやすい」ように上げるトスには定評がある。昨年11月の全日本大学選手権(インカレ)で優勝の立役者となり、2年連続でインカレのセッター賞も受賞。「スパイカーを生かすプレー」を信条に、試合展開を分析してトスを振り分ける筑波大の司令塔だ。



インカレで2年連続セッター賞受賞

## 万代真奈美(体専2年)

り、転向を決意。当初はミスが多く、試合で勝てなかった。適応に苦しんだが、徐々に才能を開花させた。「セッターを始めから相手ブロックと折れた。自分の技術不

手と戦い、大きな刺激を受けた」と振り返る。だが、3年時にはレギュラーを奪われ、コートに立てない時期も経験。「今までで一番の挫折だった。自分の技術不

4月からはインカレ2連覇をかけた戦いが始まる。現在の課題はレシーブ技術の向上だ。「レシーブはまだまだ苦手。セッターにとって重要な技術なので、もっと伸ばしたい」と強く意気込んだ。

## 多彩なトス回しで攻撃けん引

中学は「日本一」を目指し、弱点を見つめ直し、今後の大会に臨みたい」と語った。

卒業後のプロ入りも視野に入れている。「プロで大学出身の選手として活躍できるように、感覚ではなく頭を使ったプレーを確立したい」と将来を見据えた。(中川遥香(人文学類1年、写真は本人提供))

# つくば市 リサイクルセンター 4月稼働 プラごみ分別収集に



4月の稼働開始に向け、工事が進むリサイクルセンター(1月24日、つくば市水守で)

つくば市は4月1日から、新しいごみ処理施設「リサイクルセンター」(同市水守)の稼働に伴い、新たにプラスチック製容器包装(プラごみ)の分別収集を始める。収集は月2回で、家庭から出るごみが対象。同市はこれまで、プラごみを「燃やせるごみ」として収集してきたが、分別収集でプラごみをリサイクルし、燃やせるごみを減量させたい考え。プラマーク表示のあるものが対象だが、同市の担当者は「分別に迷ったら、従来どおり燃やせるごみとして出していい」とも話している。

同施設はつくば市が約40億円をかけ建設。粗大ごみに収集するプラごみは同施設で圧縮後、樹脂製品の原料などとして再利用されやびん、ペットボトルなどの資源ごみを処理する。新設の施設には市民が利用できる会議室や談話室を設けるほか、収集した粗大ごみのうち、直して使用できる家具などを修繕、市民に提供する「家具類等再生工房」を設ける。

新たに収集の対象となるプラごみは、プラスチック製のレジ袋やビニール製容器、包装が対象だが、汚れていたりプラマーク表示のないものは対象外となる。

筑波大学施設部によると、大学内で排出されるごみは「事業系ごみ」のため、

(木村誠、写真も)

プラごみの分別収集の対象外だという。一方、学生宿舎からのごみは一般家庭と同様の「家庭系ごみ」のため、4月以降は分別回収が始まる。同部は、宿舎を運営する学生生活課と収集場所の確保などについて検討する。

「クリスマスお茶会」  
留学生らが茶道体験  
留学生に茶道を体験してもらおうと、「クリスマスお茶会」が昨年12月10日、グローバルヴィレッジ内の大和リースコミュニティセンターで開かれ、留学生などが参加した。

会場ではまず、ドイツ出身の留学生が母国のクリスマス文化を紹介。イブ約4

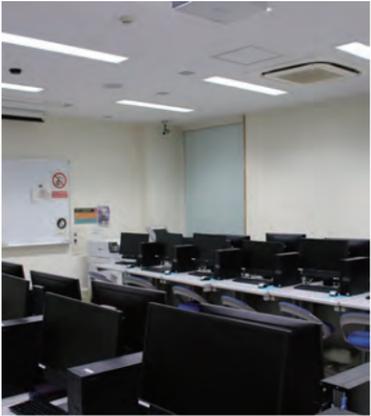
週間前から始まる「アドヴェント」というクリスマスの準備期間の様子や、クリスマス当日の過ごし方などが写真やビデオで説明された。続いてのお茶会では、筑波大学茶道部和敬清寂社の部員らが茶道の歴史や作法などを解説。参加者は作法を教わりながら、抹茶と和菓子を味わった。参加した留学生は「抹茶は苦かったが、和菓子の甘みが好きだった」と話していた。

# サテ室 マナー悪化

## 利用者「無法地帯と化している」

筑波大学内で、学生がパソコンや印刷機などを使う「全学計算機システムサテライト(サテ室)約20カ所の一部で、端末や液晶ディスプレイ用のコンセントが私的に利用され、抜かれたままになっている事例が頻発し、パソコンの自動更新などに支障をきたしていることが分かった。コンセントの私的利用は過去、利用者の私物のケーブルからほやがでて以来禁止されている。関係者によるとこのほかに飲食や私物の放置など、禁止行為が多発している。サテ室の利用状況を調べた。

(竹添ぞら 知識情報・図書館学類2年)



全学計算機サテライト(1月18日、第二エリアで) = 遠子内早紀撮影

## 春日サテライト

サテ室の端末などを管理する学術情報メディアセンターによると、電源プラグ(プラグ)が抜かれる問題が特に多いのは春日サテライト(春日エリア)の7C102、103号室。担当者によると、プラグ抜きのほか、引き下ろされたディスプレイ下部にキーボ

ドが接触し、キーが押し下

がった状態で放置される事例が多発している。これは、主に私用パソコンを利用後、プラグを抜きっぱなしにして、キーボードを動かしたままにすることが原因だ。

同センターによると、これまで「プラグを抜かない」などの張り紙をしたが改善されなかった。このため昨年11月19日、同サテ室を授業などで主に利用する知識情報・図書館学類が、学生にメールを送り注意喚起を行った。

同センターの中井央准教授(図情学系)は「共用の施設であることを自覚して利用してほしい。違反行為が続くようであれば最悪

の場合、(サテ室に設置された)防犯カメラの映像や端末の使用履歴から個人を特定し、個別に対応する必要性も出てくる」と話している。

## 飲食・ごみ放置

各サテ室は食べこぼしによる端末などの故障防止のため、室内での飲食が禁止されている。だが全サテ室の担当者に電話取材したところ、サテ室19カ所で日常的に飲食の事例が報告されていた。

特に3Kサテライト(第三エリア)ではミスプリント用のごみ箱に飲食物のごみが捨てられていたり、ガムを机にはり付けるなどの悪質行為が相次ぎ、2年前に室内の全ディスプレイに注意書きを貼った。清掃アルバイトの学生や警備員が飲食などを注意すると「やっているのは」自分だ

## 私物の放置

長期休業中、サテ室内に私物を放置する学生が毎年いる。

医学サテライト(医学エリア)では、忘れ物などは支援室で一括して保管していたが、件数が多くなりスペースがなくなってきたため、サテ室内での拾得物は、内部にボックスを設け、保管している。ある学生は「夏休み中に教科書を数冊置いて帰ったことがある。休み期間であれば授業もなく、利用者も少ないので問題ないだろう」と話した。



ポルドー・モンテニュー大学(フランス)  
毛塚航大



フランス、と聞けば皆さんは何を思い浮かべるだろうか? 美食の国、芸術の国、FIFAワールドカップ優勝国……だが残念ながら僕が皆さんにお話しするのはそのどれも「観光」ではない。2016年に過去最高となる観光客数2400万人を達成し浮かれる日本に対しフランスはその数8400万

# 仏から学ぶ古さと新しさ

「古いものの残し方」と「新しいものの使い方」が上手な国なのだ。日本はどうだろうか。全てがそうというわけではないが、大阪城などは中に入ればほぼ近代のコンクリートの建物で

人、実に3.5倍である。長きにわたり観光客数世界1位の座に君臨するフランス。僕はそんなこの世界で一番魅力的だといつも過言ではない国にまったくもって不慣れながら日本一魅力がないとされる県、茨城県からやってきた。僕は留学をするからといって別に日本が嫌いというわけではなく、むしろ大好きだ。だからこそ知りたい。フランスの何がそこまで魅力的なのか? ということを。あわよくば大好きな地元、茨城県の魅力向上に生かせるを信じて。さて、そんなこんなでフランスに来てみた僕がまず驚いたのはなによりその「古さ」だった。僕がいるのはフランスでも有数の大都市ポルドーという路面電車が走る都会なのだが、中心街に行

まな文化的背景を持つ人の交流を目的に「多文化共生ガートンプロジェクト」を開始。システム情報工学研究科社会学専攻の授業の一環で、学生らが家庭菜園を運営したり、イベントの開催などを行っている。新保助教は「今回、初めて(ミュージックガートン)に来た留学生も多く、今後は活動の幅を広げたい」と話した。

参加したオランダ出身の留学生は「友人の紹介で参加した。(欧州で)キンダープリンシプを飲んだことがあり、懐かしくなった」と話した。(越智小夏 比較文学類3年)

「古いものの残し方」と「新しいものの使い方」が上手な国なのだ。日本はどうだろうか。全てがそうというわけではないが、大阪城などは中に入ればほぼ近代のコンクリートの建物で

ドイツ風のクリスマス会を開催するイベント「ドイツ

# 留学生と日本人学生交流 ドイツ風クリスマス会開催

風クリスマス会が昨年12月10日、芸術学系棟北の「ミュージックガートン」で開催された。新保奈穂美助教(生環系)らが主催し、留学生や日本人学生の交流を目的としたもので、今回で2回目。

留学生ら約20人が訪れた会場では、温かいリンドージュースにシモンなどのスパイスを加え、薄く切ったオレンジを浮かべたドイツの家庭料理「キンダープリンシプ」が振舞われた。ミュージックガートンは芸術専門学群の実習庭園として使われていたが、2016年に新保助教と雨宮護准教授(シス情系)が、さまざま



「虫愛づる人」たちによる、昆虫愛溢れる約60編の気楽な昆虫話。20人の研究者たちが、それぞれの視点から昆虫について熱く語ります。そんなよきこの名だたる図鑑には載っていない「へえ、そうなんだ」と思わずつぶやく小話の数々。登場する虫も「ミ、ハサミム、

イシノミなど……ってこんなにマニアックで大丈夫? 本書だけの書き下ろし特典として、生涯を昆虫に捧げた教授による、昆虫のドラマチックな進化のストーリーも収録! 楽しめる「昆虫ってなに?」かがわかる本。『菅平生き物通信 69号』平成31年1月14日発行より

A5判並製、約156頁。3月6日啓蒙の日に刊行。1950円十税。

# 自転車盗難被害減らず

## 筑波大内 被害台数は3年間で206台

### 筑波大学全体 206台

### 学内の地区別自転車盗難被害台数



つくば市で、2016年1月～昨年12月末までの3年間の自転車盗難被害台数が710台から421台と飛躍的に減少する一方、筑波大学内での盗難台数は3年間でほぼ変わらないことが、つくば中央署や学生生活課などへの取材で分かった。大学内で盗難された自転車のうち、半数以上が鍵をかけていなかったという。(森貴遠大)

同課によると、3年間の筑波大の自転車盗難被害台数は、昨年17、16年に比べ微増は、昨年74台、17年63台、16年69台の計206台で、台数はこの3年間で、築波大で710台と最多で、次いで17年522台、18年421台と年々減少していた。同課によると、築波大で

(筑波大学調べ、2016年1月～昨年12月)

この3年間に盗まれた自転車206台のうち、無施錠の自転車は119台。一方、学内の地区別での3年間の被害は、第一エリアが36台と最多で、次いで春日エリア29台、第三エリア27台、体育・芸術エリア26台、平砂学生宿舎周辺26台、一の矢学生宿舎周辺14台、追越学生宿舎周辺4台、医学エリア15台、本部棟周辺1台、春日エリア29台と、同課によると、築波大では、同課に盗難届けが出されていた自転車を乗り回していた学生が学内で発見されたが、その学生は「自転車は学内に放置されていたという内容の話をしていた」と話した。

### つくば市内では激減

横領罪という立派な犯罪だと話している。また学生生活課の担当者は「二つの鍵を使う二重ロックなどに、乗り捨てた事件も起きて盗難の予防に努めてほしい」と話した。



除幕する徳武さん(右)と金保副学長(1月16日、筑波大学ショッピングプラザで)

# 愛称は「サクラテラス」

## 看板の除幕式を開催

学アリアンサ店がオープンした昨年10月1日から、学生や教職員、関係者を対象に愛称を公募した。同月31日までに83件の応募があり、審査の結果、徳武さんの応募作「SAKURA TERRASSE」に決定した。徳武さんによると、名前の理由として、同所が桜並木に囲まれていることや、筑波大が旧新治郡桜村に位置したことなどを挙げている。

徳武さんは「利用者に定着する名前になるとうれい」と話した。

佳作には紀村修一さん(スクール1年)の「つくばオアシス」、劉知優さん(社工3年)の「Siesta」(シエスタ)が選ばれた。(木村誠、写真も)

# 交通安全の大切さ学ぶ

## 蹴球部共催 小学生183人が参加

小学生の交通事故を防ぐこと、筑波大学蹴球部と同部スポンサーのトヨタカローラ南茨城(つくば市西郷)は昨年12月9日、「体験型交通安全教室」を筑波大学多目的グラウンドで開催し、つくば少年少女サッカー連盟に所属する小学3年生以下の児童183人が参加した。同部は地域貢献を目的に、つくば市内の少年サッカーチームに部員をコーチとして派遣しているが、地域貢献の一環として交通安全教室の開催は初めて。

「死角」を知るコーナーを設け、参加者は実際に運転席に座り、車の周りに置かれたコーンが見えないことを体感していた。また反射板の製作コーナーも設けられ、参加者は反射板に丸やハート形など思い思いの形の反射シールを貼って、反射板を作成。参加した小学生は「楽しかった。(反射板はリュックに付けたい)」と話していた。

トヨタカローラ南茨城の木村政勝さんは「蹴球部員の協力で教室を開くことができた。蹴球部とのつながりを深める良い機会になった」と話した。また



運転席に座り、「死角」を体感するコーナー(昨年12月9日、多目的グラウンドで)

# 麻雀同好会

## 運を味方に全国制覇

麻雀は中国で始まったテーブルゲーム。ブルゲームを4人で囲んで行う。牌を使い、役と呼ぶ。

毎週金曜日の放課後、50棟に集まり麻雀を話す。

加する部員は現在71人、ほとんどが大学から麻雀を始めた初心者。創立3年、今年が



雀卓を囲み競技を行う会員たち(昨年12月23日、つくば市久保仲間を集めた)

優勝を果した。部員らは楽しそうに今日も雀卓を囲む。創立3年、今年が勢いは止まらない。(柏このか比較文化学類2年、写真も)

# 探る

「ロン」という声を上げ一人の部員が自慢げに手の内を明かす。ほかの部員の落胆する声と共にカラカラと牌を中央に集める音が響く。

昨年11月、全国の学生雀甲子園(学生麻雀連盟主催)で、団体優勝を果たした。

麻雀は中国で始まったテーブルゲーム。ブルゲームを4人で囲んで行う。牌を使い、役と呼ぶ。

毎週金曜日の放課後、50棟に集まり麻雀を話す。

加する部員は現在71人、ほとんどが大学から麻雀を始めた初心者。創立3年、今年が

### 催事

2月26日(火)～3月3日(日)に筑波大学芸術専門学群専攻の有志展「播種」がつくば市民ギャラリー(つくば市吾妻)で開かれる。

開催時間は午前9時から午後5時までで、初日は午後1時開館、最終日は午後3時で閉館。入場は無料。問い合わせ || haruki-kenjiro-10.02@zewb.n.e.jp

### なないろスポーツフェスタ2019

3月17日(日)に「なないろスポーツフェスタ2019」が洞峰公園(つくば市二の宮)で開催される。同イベントは筑波大学が主催し、スポーツの価値を感じ、相互理解を深める「スポーツと教育のイベント」。子どもから大人まで楽しめるイベントを用意している。開催時間は午前9時から午後5時30分までで、受付は午前7時30分から始まる。参加費はプログラムに応じて500円から。

種目・対象：なないろ駅伝(中学生以上)、リレーマラソン(4時間耐久)・・・中学生以上、ファミリーラン：小学生の親子、教育プログラム：小学生

申込方法：2月18日までにホームページから。問い合わせ || nanairo@nanairo-festa.world

年の新しい団体だ。同会は当時1年生だった代表の古館摩輝(まこと)さん(心理3年)が設立した。古館さんが本格的に麻雀を始めたのは、高校生が麻雀を描いた漫画『咲・Saki』(スクウェア・エニックス)を読んだことがきっかけ。麻雀の間が良い流れを作ってくれた中、一度逆転された時には焦りを感じた。優勝できたのはソクがあったからだと思う」と決勝を振り返る。

参加する中、同会は地方予選と本戦決勝を1位通過。決勝も副将戦まで1位を維持していた。大将戦の途中、一度は逆転を許すも最後は1位を奪還し優勝を決めた。予選から1位を守り抜いた完全優勝だった。2017年は全国5位という結果に終わっており、敗戦を経ての初優勝に喜びはひとしお。古館さんは「仲間が良い流れを作ってくれた中、一度逆転された時には焦りを感じた。優勝できたのはソクがあったからだと思う」と決勝を振り返る。

# Who's Who?

## 第13代つくば観光大使に就任

### 山崎 麻亜紗 さん (社学2年)



振り袖を着てつくば市のPR活動を行う山崎さん=本人提供

イベントやメディアを通してつくば市をPRする「つくば観光大使」の13代目に、昨年9月就任した。大学では放送サークル「THK筑波放送協会」に所属し、市のケーブルテレビ出演。そこで鍛えた流ちょうで明るい話しぶりを生かし、全国放送のラジオやイベントなどにつくば市の魅力をPRしている。大使としての仕事は多岐にわたる。つくば市などが主催する市の特産物をPRするイベントなどで挨拶を行ったり、来場客にパンフレットを配ることもあれば、モデルとして地域情報誌

の撮影をすることもある。普段の学生生活に加えて、週末に大使の活動が入る時は多忙だが、楽しみながらこなしている。

魅力を「伝える」大使の活動の原点は、高校生時代の留学にある。中学生の時にアメリカや中国からの帰国子女の友人と交流した。海外に興味を持ち、高校生の時にニュージーランドへ3年間留学。異国の地で日本の文化を紹介する機会があり、文化を伝えることに興味を抱いた。

千葉県出身。つくば市に来たからは、「THK筑波放送協会」に入り、その友人と市内を巡った。そこで知ったのはラーメンの味。つくば観光コンベンション協会によると、市内には約100軒のラーメン専門店があるという。スープや麺の種類が豊富だった。以前はラーメンを食べることは少なかったが、つくば市で初めて食べた鶏白湯のラーメンなどに魅了された。

## 市内を巡り知った魅力 SNSなどで発信

これ以外にもつくば市にはさまざまな魅力があった。筑波山に初めて登った時は、日没後に山頂からの夜景を堪能。登山の楽しさも感じた。

つくば市の魅力に次第に惹きこまれる中、ある日ショッピングモールを歩いていたところ、つくば観光大使の募集ポスターを発見。市の魅力を多くの人に発信したいと思い、応募を決めた。

書類選考と面接を経て、ほかの2人の女性と共に大使に就任。大使の任期は2年で、前年から務める3人と合わせて6人で活動を開始した。

大使になって以降、特産物や自然の美しさなど市の魅力を再確認する機会が増え、「もっと多くの人につくば市を訪れてほしい」という思いが強まった。市の魅力を更に発信するために、大使就任時から、写真や動画を投稿するSNS「インスタグラム」を駆使。市内で評判の力

フェの写真や、大使として参加したイベントの写真などを投稿している。投稿に寄せられるコメントが活動の原動力になっている。

昨年11月の「第38回つくばマラソン」では、走路近くから声援を送る役目を担い、そこから撮影した写真を投稿した。「特別な景色」を、多くの人と共有することが大使のやりがいの一つだ。

今後は茨城県の観光地やグルメなどの知識を問う「いばらき観光マイスター認定試験」の受験を通じて、つくば市や茨城県を更に知りたいという。

◆「影響力のある人になりたい」活動を機に、多くの人につくば市を訪れてもらうことを目指す。SNSをはじめ、さまざまな方法を開拓しながら、つくば市の魅力を伝えていく。

(國井俊介「社会学類1年」)

## 占春園再生プロジェクト



池の水を抜いて捕獲した魚を見る参加者(1月13日、東京都文京区で) = 越智小夏撮影

2面へ

学内総合

## 星空コンサート



筑波大生が制作した映像を背景に演奏する奏者(昨年12月15日、つくばエキスポセンターで) = 村上史明助教提供

5面へ

学芸

## 全日本インカレ



ブロックで相手の攻撃を防ぐ丸尾(右)と万代(昨年12月2日、大田区総合体育館で) = 飯田健介撮影

8面へ

スポーツ

## クリスマスお茶会



茶道の作法を学ぶ留学生(昨年12月10日、グローバルヴィレッジで) = 修其志撮影

10面へ

学生生活

## 編集後記

米国西部の「ベル」といふ町を(存)ですか。町では1998年ごろ、経営不振で地域紙が休刊。その十数年後には市の幹部が過去12倍、6400万円の年俸を得ていたことが、偶然その町を訪れた大手紙の記者によって明らかになりました。新聞記者の監視の目が動かなくなっていたためといわれています(2011年10月29日付朝日新聞朝刊より) ◆ニュース媒体が紙からウェブに変わる中で、日本の新聞発行部数は激減。中には廃刊に追い込まれる新聞もあり、日本で「ベル人文学類2年」

## 編集・発行

■筑波大学新聞編集委員会  
 △委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) △社会系(人文社会学系) 教授 土井隆義  
 △副委員長 土子昇(学生部学生支援業務推進担当課長) △編集委員 菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学、竹中佳彦(人文社会学系・教授) 政治学  
 ◆筑波大学新聞編集部  
 △編集代表 福原直樹(筑波大学・教授) △シャイナリス(人文学類2年) △副編集長 飯田健介(社会学類2年) 森寛太(同2年) ほか編集部員17人

次号は

# 4月8日(月)

発行予定です

印刷：ヒラマ写真製版  
 発行：筑波大学